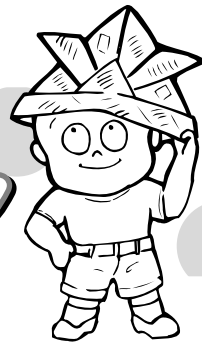


子育てチャンネル



役場に奉職して28年。保健分野一筋だったが、今年5月に幼児センターへ異動した。幼児センターは生後6カ月から就学前の子どもたちが12月1日現在218人在園している。最近、ようやくほぼ全員の顔と名前が一致してきた。初めは毎日「何組（の先生）？」と聞かれた。このころは勝手にいろいろ話しかけてくるので、話を聞き取って心えるのに一苦労。

子どもたちは開園時間の朝7時半からポツポツ登園し始め、8時半過ぎにバスが到着すると職員室のカウンターは一気に賑わう。

バス登園の姿に年齢差と成長が見える。年長組は整然と並んで出席簿をチェックする。年中組はさっと済ませる子もいれば、「わかる？」と声が掛かるのを笑顔で待つ子も。年少組は最後にバスから降りて玄関からなかなか進まない。カウンター前に不安げに立つか、譲り合えずに順番や鉛筆を取り合う。

毎日の繰り返しで自分の欄

一人ひとりの成長が集団の成長へ 個別性が生きる力に!!

がわかり、手を添えられて〇を書いていた子も自分で書けるようになり、筆圧も徐々に力強くなる。〇から☆や♡に発展する子もいる。

毎週月曜日朝の「ももんが集会」の並び方や話の聞き方なども年齢差や個人差が見える。

1〜2歳児のうちは大勢の人に圧倒されて不安がる子たちも、次第に慣れて一人で座れるようになる。

初めて集団に入った3歳児は友達とぶさけたり、ちよっかいを出してけんかになることも。広いホールと大勢の人に興奮して落ち着かなくなったり、同じ姿勢を保つのが苦手な子もいる。

不安がる子どもを抱いたり手をつないで安心させ、落ち着かない子や友達とトラブルを起こす子たちを体で制止し、声を掛けたり手を握ったり…。先生たちは手も体も足りない。でも次第に集団の統制が取れていく。

いろいろな積み重ねは運動会やお遊戯会などで成果が出る。

練習は楽しみながら少しずつ期待感を高めていき、本番

は両親の期待を一身に受けて練習以上の結果を披露する。幼児センターの子どもたちは本番に強い!?

仕事柄、零、1歳児クラスによく行く。この年齢の成長は目覚ましい。寝ていた子が座り、立ち、歩く。遊具で遊び、身振り手振りからことばでコミュニケーションが図れるようになり、まさに人に進化する過程。

排せつや食事などの生活全般が介助だったのが、手づかみから始まってスプーンやフォークで食べ、時間でトイレに通って2歳過ぎに自立する子ども。

子どもの成長発達は千差万別だが、その子なりの道筋がある。大人はじっと見守り、子どもからの発信に心え、より伸びるのを願う心を持ち続ける。代償は子どもの笑顔や成長する姿。なにもものにも代え難い糧。

着任して半年余り。子どもの成長を楽しみながら、やや体は疲れ気味だが心は癒されている。

幼児センター 保健師
伊藤 和代



白画像
おのつえ あいさ



おみこしあき
さのき ひな

—— 幼児センターの子どもたち ——